

理想の国土を実現するために —キホンとギモン—

To realize the ideal national land

特集担当主査：今井 嵩弓

特集企画担当：浅野 和香奈、木下 義昭、工藤 昌生、佐伯 直人、長谷川 由布子

ABSTRACT

Globally, the COVID-19 pandemic proved various problems and caused revisions of rules and plans in various industries. The civil engineering industry is no exception. We now discuss how the national land should be, and the JSCE published "The Big Picture of Revitalization and Civil Engineering in Japan after the COVID-19 Pandemic -Transformation to an Open and Attractive JSCE-." We introduce the "ideal national land image" in this special issue from different perspectives. The issue consists of two parts: the basic knowledge and the ideal national land to answer questions on national plans. They include a round talk and an article on Japan's national land plans and the change in philosophy, the latest construction project proposals by JAPIC, and local public transportation planning. To illustrate future national land with other views, three authors contributed articles on their experiences and thoughts from forestry, steel manufacturing, and ICT perspectives. We wish to allow readers to think about their ideal country, what they should do to realize it, and motivation to be part of the challenge.

「理想の国土」を考える

近年、世界各地でこれまでの常識を揺り動かす問題が頻発し、さまざまな業界においてルールや計画の見直しが問われた。私たち土木技術者

も例外ではなく、国土のあるべき姿を今一度見直す必要があると考える。このような社会情勢に応じて、土木学会令和3年度会長特別委員会は2022年6月に提言『Beyondコロナの日本創生と土木のビッグピクチャー』を公表した。提言書では、「制約に縛られず、未来志向で、従来からの価値観の転換を図り、時代の変化に適応する」ビッグピクチャーの共有が重要と述べている。社会問題が

顕在化する今、俯瞰的に将来を見据えた目標を置き、危機に対して土木業界の共通認識としてのおのの為すべきこと為す、といった考え方に共感する方も少なくないであろう。

図1は同委員会が提言書の構成をまとめたイラストである。ここで、イラスト中にある「ありたい未来の姿」というキーワードに着目したい。提言書の中には「ありたい未来の姿」について、安全・安心かつ快適に暮らし続けられる社会の条件といった共通認識も示されているが、一方で立場や思想、人生経験によって、思い描く「ありたい未来の姿」が異なることも容易に想像がつく。

よって本特集においては、As is / To Be分析という、現状の姿とある

Beyondコロナの日本創生と土木のビッグピクチャー：CONTENTS

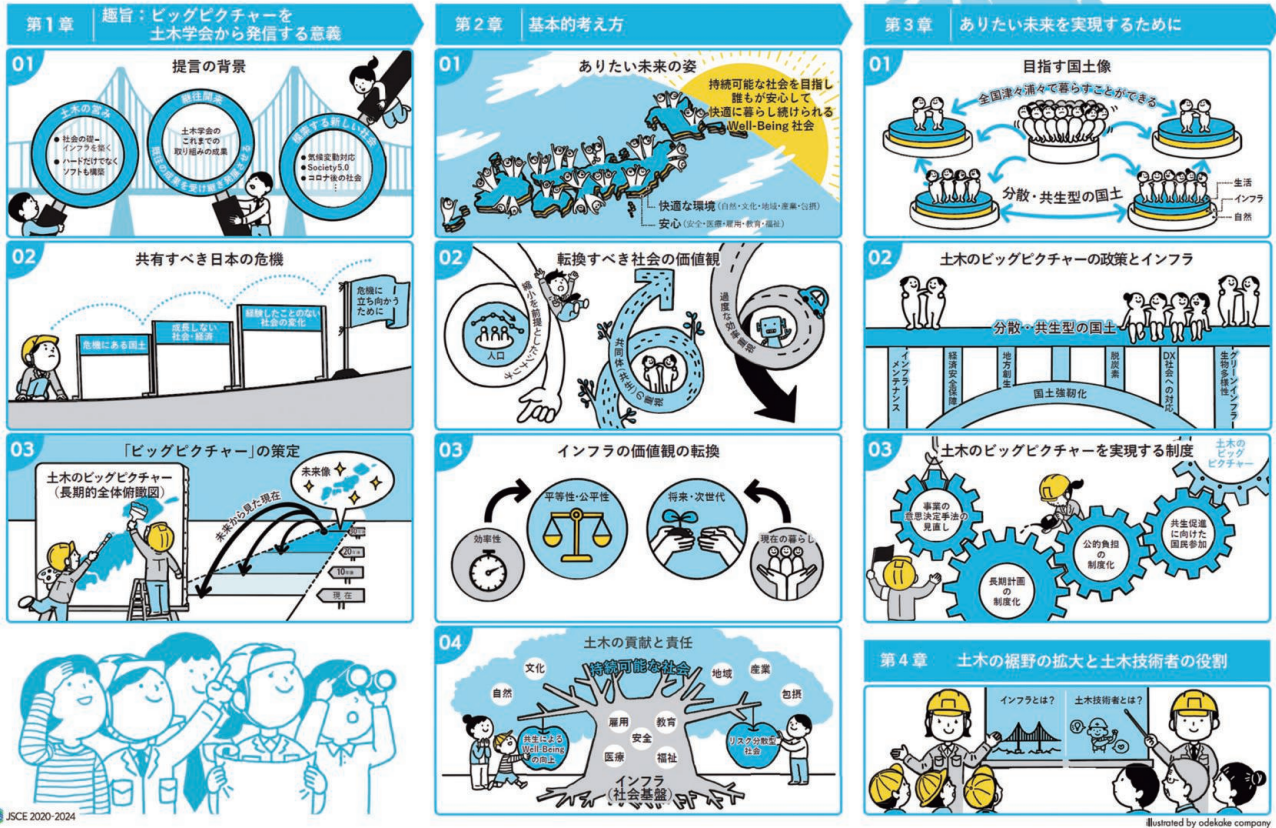


図1 Beyondコロナの日本創生と土木のビッグピクチャー（イラスト：中嶋伸恵（おでかけカンパニー））

うな理想の国土を考えているのか」

ギモン編では「なぜ・誰が・どのよ

次に、現状だけでなく過去も振り

返ることを目的として、全国総合開

発計画から国土形成計画へと続く国

土計画の変遷を論じていただいた。

携わる行政機関職員に登壇いただき、インタビュー形式で国土計画について解説いただいた。

理想を語る上では現状に対する理

解を深める必要がある。本特集は過

去と現状を知るためのキホン編と、「理想の国土」を思い描く人々ほど

というギモンを主題に据え、それに

対する答えとなる記事を紹介する。

まずは、そもその論点となる「な

ぜ理想の国土を描く必要があるの

か」という問いに対して、その考え方

と意義について論じていただいた。

次に、理想の国土を描くことの具

体例として、「国土・未来プロジェクト研究会」にて検討が進められてい

る内容を紹介する。また、近年ロー

カル線の廃線問題などが話題になっ